

# 管理型最終処分場を拡張

## 富山環境整備 大型サーマルリサイクル施設も稼働

産廃・一廃の収集運搬、中間処理、リサイクル、最終処分などを総合的に手掛ける富山環境整備（富山市、☎076・469・5335）は、第3期管理型最終処分場を拡張、既存の処分場より面積を約2万平方メートル拡大し、15万7500平方メートルになった。紙くず、木くず、繊維くず、汚泥につ

いても追加で許可を受け、建設系混合廃棄物の受け入れも可能となった。また、サーマルリサイクル施設の本格稼働が開始され、総合リサイクル施設としての体制が整備された。

管理型処分場の総容量は450万3360立方メートル。受け入れ対象は、燃えがら、汚泥（無機汚泥に限る）、廃プラ

スティック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくずおよび陶磁器くず（石膏ボードを含む）、鉍さい、がれき類（石膏ボード）、ばいじん、紙くず、木くず、繊維くずの13品目。側壁と底部は不透性地層に二重の保護マットと三重の遮水シートを設け、浸出水は既存の水処理施設に導水する。

敷地面積は3万5885平方メートルで、施設はロータリーキルン炉および2次燃焼炉で構成される。集じん装置の後にダイオキシン分解脱臭装置・脱硝装置を備え、周辺環境にも配慮している。総事業費は40億円、クレハ環境（福島県いわき市）が設計・施工した。

受け入れ品目は、廃プラスチック、木くず、紙くず、特別管理産業廃棄物（医療系廃棄物）、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さの9品目。現在までの営業エリアは北陸3県が中心だったが、交通インフラが整備されてきたことからエリアを拡大していく考え。同社は、富山市の処分業の許可において産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価基準の適合確認を受け、容器包装プラスチックの再商品化工場ではISO9001、14001の取得により、品質・環境管理に重点を置いている。



管理型最終処分場



サーマルリサイクル施設

現在の月間受け入れ量は約3000トだが、拡張により今後30年にわたり受け入れができる体制となった。

また、管理型処分場近隣には、

紙くず、特別管理産業廃棄物（医療系廃棄物）、汚泥、廃油、廃酸、廃

アルカリ、動植物性残さの9品目。現在までの営業エリアは北陸3県が中心だったが、交通インフラが整備されてきたことからエリアを拡大していく考え。同社は、富山市の処分業の許可において産業